三鷹市立第六小学校　令和8年度【理科】授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年			
第2学年			
第3学年		【現状】 ○実験に対しての興味・関心があり、すすんで学習活動に取り組む児童が多い。グループで話し合って予想を立てたり、協力して実験したりすることができた。 【課題】 ○問題に対する予想や実験後の結果から分かったことを考察することが苦手な児童が多い。 ○活動は楽しんで行うが、単元ごとの学習の振り返りが書けない児童が多い。	◎ICTを活用し、情報を視覚的に示すとともに、グループワークを多く取り入れ、自身の考えを表現し共有する機会を増やす。 ○自分の考えを自分の言葉で表現する経験を積ませるとともに、机間指導で個に応じた支援を行う。 ○よく書けている振り返りや予想のノートを紹介し、書き方を参考にできるようにする。
第4学年	【成果】 ○学習用タブレットを活用し、細かく観察することができ、自分なりの考えをもつことができた。 【課題】 ○日常生活と関連させて予想を立てたり、正しい結果や考察をまとめたりする力が必要である。	【現状】 ○問題に対する予想とともに、どうしてその考えをしたのか理由を書く力が身に付いてきている。 【課題】 ○理科の学習と日常生活とを結びつけて考えることが難しい。	◎ICTや教具を活用し、学習に関連する資料や動画を見せ、気付きや考えをもたせやすいようにする。グループ活動を通して気付きや考えを共有し合う時間を多く取る。 ○単元の終わりに学習のまとめを行うとともに、理科の学習と日常生活での出来事の中で共通するものを紹介する。
第5学年	【成果】 ○学習用タブレット端末の活用により、科学的な事象をより具体的にイメージしながら、主体的に学習に取り組むことができた。 【課題】 ○根拠をもって予想を立てることが困難な児童がいる。日常生活と関連付けて考えることが難しい。	【現状】 ○グループで話し合いながら予想をし、実験計画を考えることで、苦手な児童も学習に前向きに取り組むことができている。 【課題】 ○実験の結果を対照実験も参考にしながら考察することが難しい。	◎毎回の実験の考察でよく書けている児童のノートを紹介することで、よりよい書き方を理解して自分のノートに生かせるようにする。 ○引き続きグループでの実験計画を立て、発表をする活動を通して、苦手な児童も前向きに学習に取り組めるようにする。
第6学年	【成果】 ○単元のまとめに「①学習課題 ②実験方法　③結果　④考察」のように、順序立てて書くことができるようになった. 【課題】 ○予想を立てるときに、日常生活の事象と結び付けて考えることが難しい児童が多い。	【現状】 ○実験や観察など、目の前で起こる事象に高い興味をもって学習に向き合うことができている。 【課題】 ○自分の考えを言語化して表現する力を高める必要がある。 ○結果を考察するためにどのような視点でまとめればよいのかを明確にして書けるようにする。 ○実験を行う際、条件や仮定など科学的な視点をもつことの必要性を高める必要がある。	◎学習用タブレット端末を効果的に活用し、参考動画や調べ学習の材料となる情報を通して、課題に向き合う促しを意図的に行うようにする。 ○理科の学習で使われる用語を正しく習得させるようにし、自分の考えを抵抗なく言語化できるようにしていく。 ○結果から分析する視点を明確に示し考察を具体的に書けるようにする。